

全国がん登録室紹介



山口県がん サーベイランスセンター 全国がん登録室

山口県は本州の最西端に位置し、三方を海に開かれた豊かな自然と歴史文化を持つ地域です。大きくは、瀬戸内海沿岸地域、内陸山間地域、日本海沿岸地域の3つに分けられ、気候は概して温暖であり、風水害や地震も比較的少なく、全体として住み良い県といわれています。

山口県には、「ふぐ（福）」をはじめ、「瓦そば」や「獺祭」などの特産品が有名であり、観光地では、ニューヨーク・タイムズ紙にも掲載された日本三名塔の一つ「瑠璃光寺五重塔」をはじめ、「角島大橋」や「岩国錦帯橋」など山口県には魅力的な観光地があります。

2026,10 yamaguchi

山口県について

人口は約 125 万人（令和 8 年 6 月 1 日時点）で、高齢化率は 35.5%と全国平均の 29.3%を上回っています（令和 6 年 10 月 1 日時点）。令和 5 年のがん罹患患者数は約 1 万 2 千人、令和 6 年のがん死亡者数は約 5 千人です。

県内には山口大学医学部附属病院の県がん診療連携拠点病院 1カ所、地域がん診療連携拠点病院 5カ所（山口大学医学部附属病院を含む）、地域がん診療連携推進病院（肺がん）1カ所を中心としたがんの医療連携を行っています。

山口県がん登録室の歴史について

昭和 61 年に衛生公害研究センター（現：環境保健センター）に「地域がん登録センター」が設置され、平成 9 年に県立中央病院（現：県立総合医療センター）へ移設されました。

平成 19 年には、都道府県がん診療連携拠点病院に指定された山口大学医学部附属病院へ移設し、登録室を「山口県がんサーベイランスセンター」に改称して、現在に至ります。

山口県がん登録室について

センター長、管理責任者、作業担当者 6 名の計 8 名の体制で業務を行っています。作業担当者は、山口大学医学部附属病院の院内がん登録も兼務しており、がん登録病等実務者初級・中級（院内がん登録）認定を取得するなど、各々が研鑽し、精度の向上に努めています。

また、実務者の目線を持っていることが当がん登録室の強みでもあるため、都道府県がん登録室と実務者の 2 つの目線から山口県のがん登録を発展させていきたいと心がけています。

その他、県内医療機関の実務者への教育については、山口県の主催で、山口県のがん診療連携協議会がん登録部会と連携し、年に 2 回研修会を開催しております。新規参加者が増えないなど課題もありますが、今後も新たな試みに取り組んでいきます。



山口県の届出状況について

医療機関のご協力のもと、年間約 1 万 7 千件の届出票を処理しており、遡り調査についてもほぼ全ての施設から回答を得られています。その成果もあり、精度指標の DCI：2.5%、DCO：1.6%（いずれも令和 5 年診断症例）と全国と比較しても良い数値となっています。

これらの情報をもとに、年間報告書「山口県のがん登録」を毎年発行しており、山口県のホームページで公開しています。

山口県がん登録室の今後について

収集した情報を山口県に提供し、本県のがん対策に貢献するとともに、県民のがんに対する知識とがん検診受診率の向上に向けて協力してまいります。

また、令和 10 年より全国がん登録でも UICC の TNM 分類を採用するなど、実務者のスキルアップが望まれます。今後は、実務者への教育にこれまで以上に注力していきたいと考えています。

最後に、令和 10 年度に山口県で学術集会が開催されます。開催地の山口市には、先述した瑠璃光寺五重塔や、美肌の湯で知られる湯田温泉もあります。皆様ぜひ山口県へおいでませ。